

■ VISTA 7 ユーザーレポート

学校法人日本大学藝術学部 放送学科 様

VISTA 7



江古田新校舎録音スタジオに VISTA 7 を導入



日本大学藝術学部
放送学科 技術センター
石田 光男

新校舎南棟完成

日本大学藝術学部では現在、江古田キャンパスの全面的な立て替え工事を行なっています。全体の完成は2010年度の予定ですが、放送学科などが使用する南棟は今年完成し、4月から使用を開始しました。当学科では放送の現場で活躍するにふさわしい、豊かな創造力と表現力を持つ人材の育成をめざしており、理論講座だけでなく、実習授業にも重点を置いたカリキュラムを構成しています。そのためのスタジオや編集室などの制作設備を刷新・充実させることを目的として今回の整備を行いました。新校舎にはテレビスタジオ2つと録音スタジオ4つが完成しましたが、録音スタジオの中で最も大きなスタジオAにVISTA 7を導入いたしました。

多目的であること

録音スタジオでは「ラジオ制作」「音響技術」などの実習授業を中心に、さまざまな作品制作が行われています。ある時はオーディオドラマの収録が行われ、またある時はマルチトラックの音楽録音、そして同じスタジオで映像作品のMA作業を

行なうこともあり、多目的であることが特徴です。このため、各スタジオは特定の作業に特化して効率を求めたものであるよりも、必要に応じて多彩に使い分けられることが求められます。さらに今回の整備にあたっては、5.1chサラウンド作品の制作に対応させることや、スタジオ間のIPネットワークの構築による制作支援環境の提供など、時代に即応した機能・性能を実現することを意識しました。

進化を実感

当学科ではアナログテープレコーダーA80の時代からSTUDER社の製品を使ってきましたが、以前は特にその音質で評価されることが多かったように思われます。それに加えて近年、VISTAシリーズの前世代となるD950M2を使った経験から、導入後に使い手の要求が変化してきた場合にも柔軟に対応できるという点でも高く評価してきました。

VISTA 7はD950M2と比べて、Vistonicsによるきわめて分かりやすい操作デスクに変更されており、両方を体験した学生たちに大好評なのは言うまでもありませんが、ダイナミクスモジュールやオートメーション機能などもしっかりと進化していることに気付かされました。こういった進化も、世界中のプロフェッショナルユーザーに鍛えられなが

ら、バージョンアップを続けているコンソールならではのものと理解しています。

D950M2をテレビスタジオに移設

これまで旧校舎のラジオスタジオでマルチトラック録音用に使用してきたD950M2は、今回ソフトウェアのバージョンアップとコンフィグの再設定をしてテレビスタジオの調整室に移設いたしました。もちろんテレビ番組の制作実習に適した仕様に変更しましたので、使い勝手も問題ありません。さらに今回導入のVISTA 7とはMADIで接続しました。お互いのジェネラルパッチで音声素材を容易にルーティングできるため、協調作業もスムーズに行なえるようになりました。

導入後の感想

最後になりますが、今回のVISTA 7の導入にあたってのSTUDER JAPANのみなさんの対応にも感謝したいと思います。導入前においては深い商品知識やさまざまなノウハウによって、システム設計段階の打合せが非常にスムーズであったことが印象的です。また導入後に小さなトラブルはありましたが、その際に迅速かつ確かなサポートが提供されたことは、他の放送機器メーカーと比べても期待以上であると感じています。